

第●学年●組 ●●科学習指導案〔てびき〕

●●●立●●（小・中）学校 指導者 ●● ●●

1 日 時 ●●年●●月●●日（●） ●校時（●：●●～●：●●）

2 場 所 第●学年 ●組 教室

3 児童（生徒） 第●学年 ●組 ●●名

4 単元（題材）名 ●●●●●●●●

【4 単元（題材）名】学習内容とそれに伴う学習活動が想起できるような単元（題材）名が望ましい。

5 単元（題材）について

・単元（題材）観

【単元（題材）観】年間指導計画・年間評価計画の中における単元（題材）の特色や、単元（題材）がもつ価値などについて記述する。

・児童（生徒）観

【児童（生徒）観】単元（題材）の学習に係る児童・生徒の実態とともに、単元（題材）に対する認識や学習経験などを記述する。

※単元（題材）観と児童（生徒）観の記述の順序は変更可能です。

・指導観

【指導観】単元（題材）を通して児童・生徒に付けたい力を念頭におきつつ、それを実現させるための手立てや指導の重点、指導上の留意点などを記述する。

6 単元（題材）の目標

（1）

（2）

（3）

【6 単元（題材）の目標】単元（題材）を通して目指す児童生徒の姿を示す。

学習指導要領の内容との関連

【学習指導要領の内容との関連】が分かるように、項目と記号、本文をそのまま引用する。

【初任研】

7 単元（題材）の評価規準

【7 単元（題材）の評価規準】評価規準は、評価観点によって示された児童・生徒に付けたい力を明確にして、より具体的な児童・生徒の成長の姿として文章で記述する。評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を参考にするとよい。原則として、学習指導要領（平成29年7月告示）のものと評価規準等に基づき、学習評価を行うこと。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

8 単元（題材）の指導・評価計画（全○時間）

【記入例】

時間	◇ねらい（本時の目標） ◆学習活動	知・技	思・判・表	態	【評価観点】評価規準 （ ）内は評価方法
1	◇ ◆	○			□【知・技】評価規準 (評価方法)
2	◇ ◆		○		□【思・判・表】評価規準 (評価方法)
3 本時	◇ ◆	○			■【知・技】評価規準 (評価方法)
4	◇ ◆		○	○	■【思・判・表】評価規準 (評価方法) ■【態】評価規準 (評価方法)

※1 評価・評定としてまとめるために、子どもの目標の実現状況を把握し、記録するもの。

※2 子どもの学習状況を把握、分析し、子どもへの指導・支援や教師の授業改善に生かすもの。

→記録に残す評価を行わない時間があってもよいが、目標に向けて指導を行う。子どもの学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が子どもの学習状況を確認する。

【初任研】

9 本時の展開

(1) 本時の目標

【9 (1) 本時の目標】 本時の目標を具体的に記述する。
また評価規準との整合性を図る。

本時の評価観点を記入する。

(2) 本時の学習状況の3段階評価を判断する際の具体的な児童（生徒）の姿

	評価観点	具体的な児童（生徒）の姿
	【知識・技能】	
評 価	十分満足できる(A)	
	おおむね満足できる(B)	
	(B) を実現するための(C) の児童（生徒） への手立て	

努力を要する (C) の欄にはおおむね満足できる (B) の状況を実現するための手立てを記入する。

- ・ 3段階評価を判断する際の具体的な児童・生徒の姿とは、評価規準で示された付けた力の習得状況の程度を明示するための指標を（A・B・C）又は文章表記で示したものである。
- ・ 小学校、中学校とも3段階評価で記載する。
- ・ ただし、中学校においては、実現状況を分析し総括的に評価する際には5段階となることを意識し、細分化した生徒の姿を5段階で表記してもよい。

【初任研】

【指導上の留意点】学習活動を進める上での教師の準備や留意点を記述する。		【評価観点】評価規準 (評価方法) ☆Cの児童（生徒）への手立て
(3) 学習の展開 ○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応	○指導上の留意点	
1 【学習活動】は、児童・生徒の立場で書く。予想される反応は、教師が子どもの学習活動の流れを予想して試みた展開に対し、どんな反応を示し、どんな追究をしていくかを考え記述する。	○	※学習のめあてと振り返りを意識して作成する。
2 以下3箇所が対応していることを確認する ① 「8 単元（題材）の指導・評価計画」の評価規準 ② 「9 本時の展開」（2）本時の観点別学習状況の3段階評価を判断する際の具体的な児童生徒の(B)の姿と、(B)を実現するための(C)の児童（生徒）への手立て ③ 「9 本時の展開」（3）学習の展開の中的评价規準	○	
3 ○ 【評価観点】本時の評価規準を設定し、評価観点を1～2 観点程度にする。本時の目標との整合性を図る。 （評価方法）は、「行動の観察・発言」や「記述の点検・ワークシート」等、具体的な方法を記述する。 ☆は、「努力を要する」と判断されそうな児童・生徒に対してどのような手立てを講ずるかを具体的に記述する。または、教師からの支援の仕方を具体的に記述する。 <u>「記録に残す評価」は「■」、「指導に生かす評価」は「□」と記載する。</u>	○	
4 ○	○	■【知・技】 評価規準 (評価方法) ☆手立て